

浅間山火山ガスの周辺環境への影響の解明



長野県環境保全研究所 大気環境部

軽井沢コンテナ局で測定していた大気中の二酸化硫黄濃度データを詳細に解析することで、浅間山が噴火した際、発生する火山ガスが周辺環境に及ぼす影響についての推定を目指します。

なぜ研究が必要なの？

浅間山は本県を代表する活火山です。これまでも噴火を繰り返しており、今後も噴火が発生する可能性があります。活火山が噴火すると、二酸化硫黄を含む火山ガスが放出され、周辺環境に影響を及ぼす恐れがあります。



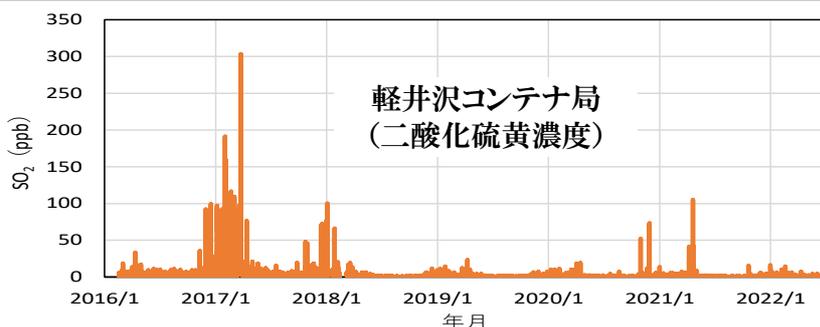
▲浅間山

どうやって研究するの？



▲軽井沢コンテナ局

浅間山の南東約9Kmに位置しており、2016年から大気中の二酸化硫黄濃度等のデータを収集、蓄積しました。



得られたデータを **解析** することで・・・

- ・これまでの測定データを整理、高濃度事例を抽出
- ・高濃度事例発生時期及び時間変動特性を解明
- ・高濃度事例発生状況と浅間山の二酸化硫黄放出状況の対応関係を解明

この研究で分かったこと

- ・軽井沢局において二酸化硫黄濃度の高いときは、浅間山の二酸化硫黄放出量も多いことが見受けられる。逆に、浅間山の二酸化硫黄放出量が多くても、軽井沢局の二酸化硫黄濃度が高くない時期が存在する。
- ・軽井沢局における二酸化硫黄濃度の40ppb以上の測定時は、風向が北北西～西北西の風が約75%を占め、その時の平均風速は3.3m/sである。
- ・浅間山の二酸化硫黄の放出量が多いが、軽井沢局において40ppb以上の二酸化硫黄濃度が測定されない2017年5月～9月の風向及び風速は、北北西～西北西の風が約19%を占めていたが、その時の平均風速は0.9m/sである。

